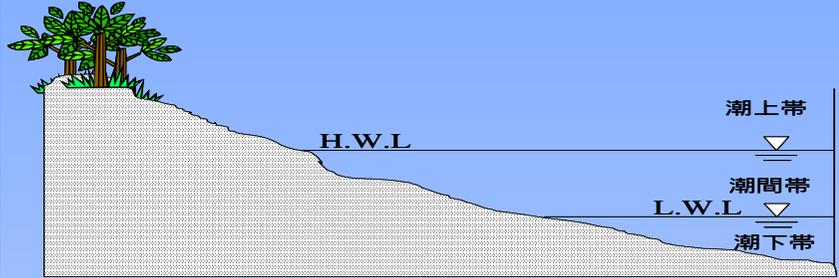


マッピング調査 調査方法

1. 調査範囲



- ・調査範囲は、汀線沿いに約100mとします。
- ・岸沖方向は潮上帯から潮間帯とします。
- ・観察は、調査範囲を東西方向に5ブロック、南北方向（岸沖方向）に15ブロック（1ブロック20m×20m）に分割したブロック毎に行います。



2. 潮間帯生物調査方法

(1) 岩礁部

汀線と垂直に並び、汀線に沿って調査対象生物を観察します。

観察は、各ブロック毎に対象生物の個体数または被覆度を記録します。ただし、ブロックで100単位を越える場合は、コードラート内の個体数を記録します。

また、調査対象生物以外に確認された生物種等も記録します。

(2) 干潟部

汀線に沿って並び、海に向かって進み、調査対象生物を観察します。

観察は、各ブロック毎に対象生物の個体数を記録します。ただし、ブロックで100単位を越える場合は、コードラート内の計測数を記録します。ハクセンシオマネキ・スナガニは巣穴の数、アサリは個体数を記録します。

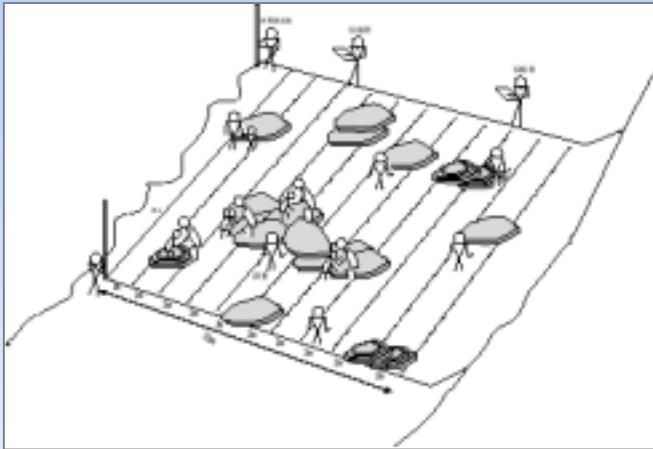


図 観察状況

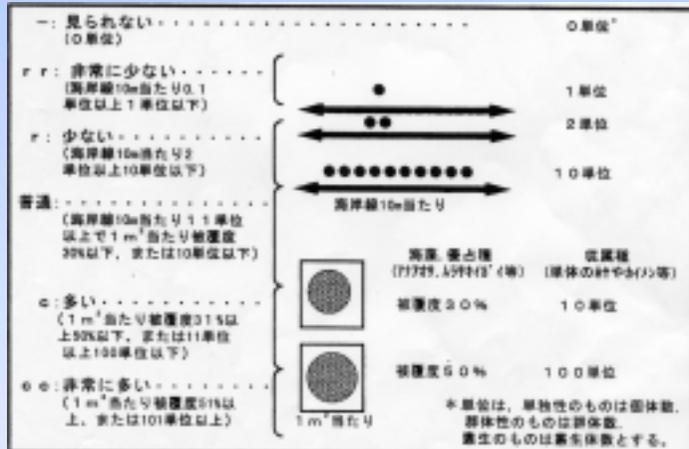


図 観察方法

3. 潮間帯生物の数の他に、潮間帯生物の住んでいる環境を調べるために以下のことを調べます。

(1) ゴミ・漂着物調査：ゴミ・漂着物については、次のように分類し、記録します。

産業系	カキ養殖の部材およびカキ殻
生活系	発泡スチロール、ペットボトル、空き缶、空き瓶、ビニール袋など
自然系	海藻、木切れなど

(2) 基質調査：基質については、泥、砂、礫、岩の4種類に分類し、記録します。

(3) 写真撮影：各ブロック毎にブロック全体およびコードラート内の写真撮影を行い、状態を記録します。

調査対象生物

岩礁部

水深



カメノテ



マツバガイ



ケガキ



マガキ



ムラサキイガイ



アナアオサ



オオヘビガイ



ヒジキ

- 清浄指標種
- 汚濁指標種
- 貴重種
- 特徴的な種

干潟部



アサリ



ハクセンシオマネキ



巣穴



スナガニ



巣穴